

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 32人

② 算数 32人

5 留意事項

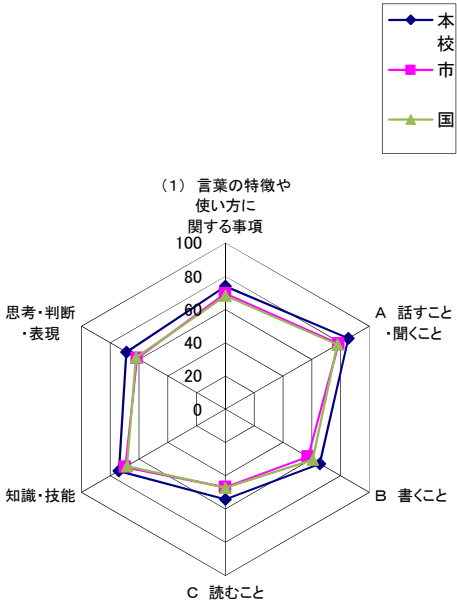
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6 学年【国語】 分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	85.4	78.7	77.8
	B 書くこと	65.6	57.3	60.7
	C 読むこと	54.2	46.9	47.2
観点	知識・技能	74.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	68.8	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

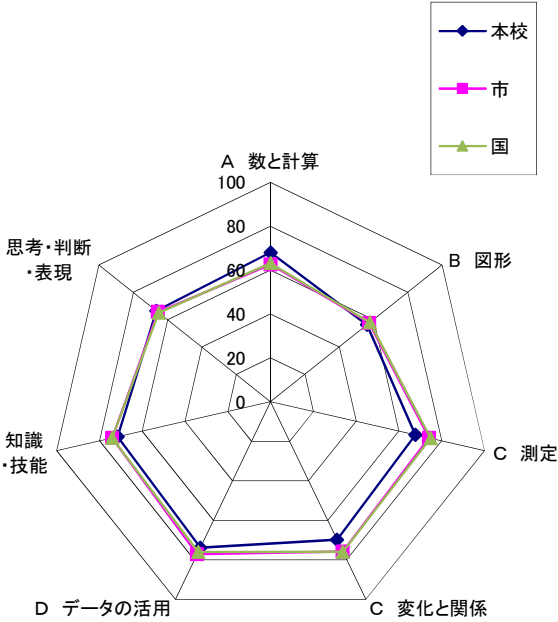
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○正答率は、市の平均を4.4ポイント、国の平均を5.7ポイント上回った。 ○県の平均正答率を4.8ポイント上回った。多くの問題で県の平均正答率よりも高い数値を示した。 ●「転がる」を漢字で表記する問題や、主語と述語との関係を捉える問題における平均正答率は70%台で、県とほとんど変わらなかった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、朝の学習や宿題などで反復練習していく。また、習った漢字を使って文章を書くよう、引き続き指導していく。 ・主述や修飾の関係、敬語や慣用句など学んだことの習熟が図れるよう、授業や朝の学習で振り返る場面を意図的に作っていく。
A 話すこと・聞くこと	○正答率は、市を6.7ポイント、国を7.6ポイント上回っている。 ○全ての問題で、県の平均正答率を上回った。目的に応じて話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題や、目的や意図に応じて資料を使って話す問題では、正答率が約90%とよく理解できていた。	・自分の考えと比較しながら話を聞いたり、適切な根拠や理由を付け加えてスピーチをしたりする力が少しずつ身に付いてきている。引き続き、少人数での話し合いやクラス全体での意見交換などの場を意図的に設定して、目的に応じた話し合いができるように指導していきたい。
B 書くこと	○正答率は、市を8.3ポイント、国を4.9ポイント上回った。 ○全ての問題で、県の平均正答率を上回った。 ●平均正答率は県を上回っているものの、約65%と低い数値を示していた。	・各行事の振り返りや日記指導などを通して、書くことに慣れさせていく。 ・文章を書く際には、目的に応じて書く事柄を整理させたり、意見や理由を区別して書かせたりして、より効果的な文章が書けるよう指導していきたい。
C 読むこと	○正答率は、市を7.3ポイント、国を7ポイント上回っている。 ○目的に応じて文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける問題や、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する問題における平均正答率は、県よりも13ポイント以上高かった。 ●文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題では、平均正答率が約70%で、県よりも7ポイント低かった。	・登場人物の心情を読み取るために、物語の中に起きる変化やその前後の出来事、情景描写、繰り返し使われる表現など、根拠となる表現や叙述に着目できるよう授業の工夫・改善を図っていく。 ・読書活動を推進して、読む力を高められるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.0	62.6	63.1
	B 図形	56.3	57.5	57.9
	C 測定	67.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	69.8	75.8	75.9
	D データの活用	73.8	77.1	76.0
観点	知識・技能	71.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	66.5	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は68.0%で、市を5.4ポイント、国を4.9ポイント、県を6.3ポイント上回った。多くの質問で県の平均を上回り、示された除法の結果を日常生活の場面に即して判断する問題では、県の平均を10.8ポイント上回った。 ●小数を用いた倍の問題では、平均をわずかに上回ったものの正答率は53.1%と低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・ミニプリントやドリルなどを活用し、定期的に計算練習に取り組ませることで計算力を高めていく。倍を求める問題は、基準量や比較量を正確に捉えることが苦手な児童が一定数いるため、定期的に復習する機会を設けていく。
B 図形	●平均正答率は56.3%で県を0.1ポイント上回ったが、市を1.2ポイント、国を1.6ポイント下回っている。 ○直角三角形の面積を求める問題では、県の平均を13.5ポイント上回っている。 ○複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する問題では、平均正答率が県を7ポイント上回っている。	・図形は他の領域に比べて正答率が低い傾向にあり、基礎的な内容を定着させる必要がある。公式や図形の性質を再確認させる教材を活用したり、段階的に発展的な問題につながるような補充プリントを使用したりするなどし、習熟を図っていきたい。
C 測定	●平均正答率は67.7%と市を6.4ポイント、国を7.1ポイント、県を5.8ポイント下回った。 ○条件に合う時刻を求める問題では、平均正答率が90.6%という高い数値を示した。 ●図形の面積について、量の保存性や量の加法性について捉えて比較する問題では、平均正答率が県を20.5ポイント下回っている。	・同じ領域の中でも問題によって正答率に大きな開きがある。理解の不十分な内容については、つまずきの原因を意識させながら、補充プリントなどで繰り返し復習し、定着を図っていきたい。 ・図形の面積については、等積変形の作業を実際に行わせるなど、算数的活動をより多く取り入れて指導の工夫を図っていく。
C 変化と関係	●平均正答率は、市を6ポイント、国を6.1ポイント、県を5ポイント下回った。 ○速さを基に道のりと時間との関係を考察する問題と、速さと道のりから時間を求める問題においては、平均正答率がともに84.4%と高い数値を示した。 ●速さを求める式と商の意味について記述された中から正しいものを選ぶ問題では、県の平均正答率より13ポイント下回っている。	・平均正答率は県を下回っているものの、比較的高い数値を示していることから、基礎的な内容は理解できていると思われる。基礎的な内容の定着を図りつつ、生活場面と関連づけて、式の意味を深く考える場면을意図的に設定していく。また、発展的な内容にも意図的に取り組ませていくことで、さらに理解を深めていきたい。

D データの活用	●平均正答率は、市を2.6ポイント、国を2.2ポイント、県を1.8ポイント下回った。 ○棒グラフから数量を読み取る問題では96.9%、棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では90.6%と、平均正答率がともに高い数値を示した。 ●集団の特徴を捉えるためにどのようなデータを集めるかを考える問題では、平均正答率は65.6%で県を6.8ポイント下回っている。	・グラフから数値や項目間の関係を正確に読み取るなどの基本的な内容は理解できていると考えられる。今後も補充プリントやドリルなどを用いて習熟を図っていく。他教科や生活場面でも活用することができるよう、様々な学習や場面などと関連付けて指導していきたい。
----------	--	--

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、肯定的回答割合が94.4%となっている。「人が困っているときは、進んで助けていますか」での肯定的回答割合も94.4%で県の平均を上回っている。さらに「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の肯定的回答割合も100%で県の平均を上回っていることから、様々な活動に意欲的に、かつ協力し合って取り組むことで、達成感や充実感を味わえていると考えられる。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、100%の児童が肯定的に捉えており、いじめがいけないことだと意識して生活していると考えられる。今後も継続していじめ啓発などの指導を徹底していきたい。

○「算数の勉強は大切だと思いますか」では、肯定的回答割合が97.2%となっている。また「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では肯定的回答割合が100%と、どちらも県の平均を上回った。算数への教科有用感を感じていることから、今後はさらに算数が好きになるよう指導の仕方を工夫したり、難しい問題にも意欲的に取り組むことができるようきめ細やかな支援をしたりするなどし、算数への関心、意欲を高めていきたい。

●「新聞を読んでいますか」の質問においては肯定的回答割合が11.1%と県の平均よりもやや低い。新聞を取らない世帯も増えているせいもあるが、学校図書館の新聞コーナーの紹介や、国語や社会の学習等で新聞を活用することにより、新聞ならではのよさを味わわせたり、文字に触れる機会を増やしたりしていく。

●国語の学習において、自分で考えて自分で取り組む課題解決型の学習や自分の考えを書いたり、発表したりする学習が「やや苦手である」と答えている児童が数名見られる。ペアや少人数グループで意見を交換し合ったり、個別に声掛けをしたりしながら学習を進め、自信を持って学習に取り組めるようにしていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善と工夫。	・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を行う。 ・学習習慣と基礎・基本を定着させるための指導の工夫。	・見通しを持って学習に取り組めるような課題の提示と、まとめ・振り返りに全校で取り組んできた。「主体的に学習に取り組む態度」の肯定的回答の割合がやや低かった。 ・各教科とも、基礎的な内容の理解はできているが、思考・判断を要する応用的な問題に課題が見られる。今後の指導をさらに工夫していきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「話す」、「書く」、「聞く」という自分の意見を表現したり、相手が伝えたいことを聞き取ったりすることに課題が見られた。	・自分の意見を安心して表現し合える学級経営に努めるとともに、伝え合う活動を意図的に設ける。	・話し合い活動や、朝の会のスピーチなどで話すことに自信が持てるように支援する。家庭学習に一言日記を取り入れるなど書く機会を増やす工夫をしていく。 ・朝の学習の時間を「モジュール学習」として位置づけ、基礎・基本の定着を図るために確実に活用していく。 ・クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高めるとともに、児童同士の学びを共有し、意見を交換し合う中で、課題を追究しようとする意欲を育てていく。